

(公益社団法人) 日本医療ソーシャルワーカー協会

ソーシャルワーク研修 シラバス内容詳細一覧

2018年度版

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 実習指導者養成認定研修(3日間)

対象: 実習生の指導に悩まれている方や今まで実習指導を行ったことのない保健医療分野のソーシャルワーカー現任者

目的: 社会福祉専門職の養成教育において、重要過程である実習現場での実習時に、有効な指導できるように、現場のソーシャルワーカーを現場のスーパーバイザーとして養成する

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 実習指導者概論(講義)	180		<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の位置づけを理解させる ・実習の意味と指導の枠組みを理解させる ・枠組みと科目との関係性を理解させる ・SWの職業における価値と倫理を理解させる ・実習指導上で倫理を意識する必要を理解させる ・社会福祉士・ソーシャルワーカー像を伝達する ・実習記録や実習評価の方法を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉士の意義と役割 IFSWのSWの定義と業務指針を振り返り、社会福祉士の意義と役割を理解 ②MSW実習で社会福祉士を養成する意味 日本MSW協会の実習指導者研修の歴史と事業展開、その意味を講義 ③実習の制度上の枠組みと意義 実習教育システムが、組織・機関間で成立していること、理解 マイクロマクロへのSW実践過程であることを理解 ④SW実践と実習プログラムの関係 体験学習によるルーピング理論の講義概論 ・実習マネジメント・プログラミング・スーパービジョン ・評価の科目構成の枠組み説明理解 ⑤個人情報保護と実習での対応 個人情報保護と実習での対応事例による個人情報保護の必要性の理解と秘密保持誓約書などの対策を協議 ⑥倫理綱領とSW実践および指導の関係 実習指導に倫理綱領を使うことについての理解と実際の確認 ⑦実習指導における専門職の役割 専門職としての指導の背景となる理論や手法についての説明、役割についての討議 ⑧実習指導ツールの紹介と理解 実習評価の方法理解と事前評価の実施、自己課題の設定 	IFSWの定義資料 (テキスト) 「新医療ソーシャルワーク実習」川島書店 2008 pp8-19/パワーポイント資料「ソーシャルワーカー倫理綱領FKグリッド自己点検表
2 実習マネジメント(講義・演習)	180		<ul style="list-style-type: none"> ・実習マネジメントの意味と内容を理解させる ・実習マネジメントの実際を体験させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①実習マネジメントの意義と対象 マネジメントシステムの構成要素の確認(実習契約・依頼システム・実習保険・各種計画書のマネジメントの要素確認) ②施設・機関内における実習マネジメント 施設・機関内のマネジメントの要素と対象、方法について、事例をもって講義と討議 ③施設・施設外における実習マネジメント施設・機関外のマネジメントの要素と対象、方法について、事例をもって講義と討議 ④実習におけるリスクマネジメント リスクマネジメントの考え方と対象方法について、講義と討議⑤実習マネジメントの実際 事前課題で作成してきた実習企画書をスーパーバイザー会議のロールプレイで相互披露 リスクマネジメント計画書を作成し、自分の組織におけるリスクマネジメントのあり方を確認 	実習契約書・実習合意書・実習依頼書・実習承諾書 pp22-37 実習企画書(対組織)・実習計画書(学生)・実習指導計画書(個別) リスクマネジメント指導計画書 実習指導計画書

3	実習プログラミング(講義・演習)	360	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラムの考え方を理解させる ・実習プログラミングの方法を体験・理解させる ・実習プログラミングの展開の実際を体験させる ・実習プログラムによる指導の実際を体験させる ・実習プログラムによる指導の実際を体験させる 	<ol style="list-style-type: none"> ①実習プログラムの考え方 実習プログラムの意味と必要性、内容を説明・理解 ②実習プログラミングの方法 事前課題で作成した実習計画書と実習指導計画書のマッチングロールプレイと修正指導 ③実習の展開方法 実習プログラムの作成例として、ケースマネジメント指導のための事例作成および計画書の作成および展開方法の説明 ④実習プログラム 構築の具体例 作成したケースマネジメント指導事例にもとづく学生指導のロールプレイ ケースマネジメント指導計画書の再修正と振り返り ⑤実習プログラム構築の具体例 面接指導計画書の作成と学生指導のロールプレイ 	<p>実習指導計画書 ケースマネジメント指導事例および学生指導計画書 ケースマネジメント指導計画書 面接技術指導計画書</p>
4	実習スーパービジョン(講義・演習)	480	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンの基礎を理解させる ・実習スーパービジョンの特質と内容を理解させる ・実習プログラムとスーパービジョンの関係を理解させる ・FKグリッドによるスーパービジョンを理解させる ・実習スーパービジョンの実際を理解させる ・実習スーパービジョンの展開方法を理解させる ・実習スーパービジョンにおけるアセスメントを理解させる ・事例を活用した事例指導方法を理解させる ・事例を活用した事例指導方法を理解させる ・実習評価の方法を習得させる 	<ol style="list-style-type: none"> ①「スーパービジョン」の基礎理解とニーズの把握 スーパービジョンの講義と知識の振り返り ②実習スーパービジョンの特質と内容 実習スーパービジョンの特質の講義と指導の困難についてディスカッション ③実習プログラムと実習スーパービジョンの展開 実習プログラムとスーパービジョンの関係性について講義と事例による展開例の提示 ④FKグリッドとスーパービジョンの実際 FKグリッドの説明と事例による適用 ⑤実習スーパービジョンの実際 実習でのスーパービジョン場面の事例提示 ⑥実習スーパービジョンの展開方法を体験 実習スーパービジョンの展開過程を実際の事例で辿る ⑦スーパービジョンの事例をFKグリッドで分析、分析結果について解説 ⑧ミクロ領域に焦点をあてたスーパービジョンの実際、焦点の当て方についてロールプレイ 習生の自己覚知の指導方法のロールプレイ クライアントとソーシャルワーカーの相互作用の把握と指導方法のロールプレイ クライアントの態度や行動の理解への指導方法のロールプレイ ⑨メゾからマクロ領域に焦点をあてたスーパービジョンの実際、焦点の当て方についてロールプレイ ソーシャルワーカーの業務行動・チームワーク・組織方針・企画運営・病院機能に対する指導方法ロールプレイ 制度・政策、地域文化、偏見、専門家集団の活動等に対する指導方法ロールプレイ ⑩実習評価の方法実習評価チェックリストの記入と自己評価 研修の振り返り 	<p>FKグリッド表 テキスト 実習スーパービジョン事例 実習評価チェックリスト</p>
5	事前課題及び事後レポート	480			

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 スーパーバイザー養成認定研修

対象:①日本医療ソーシャルワーカー協会指定の研修を受講した者。

②日本医療ソーシャルワーカー協会の認定医療社会福祉士登録者。

③保健医療分野の現任者で組織の承諾が得られる者。

上記の①～③のいずれかの要件を満たしていることが必要。ただし、いずれの場合も社会福祉士の資格を持っている者が要件となる。

目的:自身の職場における社会福祉士の新人研修・教育・指導の留意点を学び、組織内で人材育成の役割を担えるようにする。

到達目標:所属内におけるソーシャルワーク業務の内容、役割について系統的に説明できる。人材育成の役割や意味について理解し、人材育成のためのプログラムを作成できる。

修了要件:①事前課題として、自己の組織におけるソーシャルワーク業務についてのレポートを提出いただき、それを受講要件とする。

②事後課題として、倫理的配慮について記載のうえ、スーパービジョンモデル計画を立案し提出いただく。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 事前課題	45	自己の組織におけるソーシャルワーク業務について			・事前課題として、自己の組織におけるソーシャルワーク業務についてのレポートを提出いただき、それを受講要件とする。
2 オリエンテーション	20	・スーパービジョン体制の重要性 ・認定制度との関係	スーパービジョン体制の重要性を認識する。 当協会における認定とスーパービジョンに関する基本的な考え方を理解する。 認定制度におけるスーパーバイザー養成の位置づけと本研修との関係を理解する。	スーパービジョン体制の重要性を認識し、認定制度におけるスーパーバイザー養成の位置づけと本研修との関係を理解し、研修終了後に機構へのスーパーバイザー登録を目指すことができる。	
3 評価尺度(事前)作成	15	・スーパーバイザーの果たすべき責任	事前確認として、倫理基準の4領域におけるスーパーバイザーの果たすべき責任の優先度をチェックする。	スーパーバイザーの果たすべき責任について、研修受講前の自らの意識を明確にする	
4 講義と演習「組織内外のスーパービジョン体制 原理・原則・倫理」	185	・求められるソーシャルワークの機能 ・倫理綱領 ・行動規範 ・ソーシャル・ケア・システムとサポート体制 ・スーパービジョン体制の意義・機能	スーパービジョン体制及びスーパービジョンの概念枠組みの意義と必要性を理解する。	スーパービジョン体制の意義と機能を理解し、スーパービジョン体制においても倫理綱領・行動規範に基づき実践できる。	・演習において、スーパービジョンの必要性について説明できる。 ・面接授業の出席100%。演習及び講義の欠席は認めない。出欠は講義、演習の区切りごとに確認する。遅刻は、講義の開始から30分以内までとし、30分を超えた場合は欠席とする。30分を超える早退も同様に欠席とする。演習の遅刻・早退は、欠席とする。

5	講義と演習② 「包括的スーパービジョン体制」	100 ・スーパービジョン体制の機能・基本姿勢・基盤・構造 ・人の尊厳 ・ソーシャルワークのグローバル定義 ・専門性を保証する3つのレベル	包括的スーパービジョン体制について理解する。	スーパービジョン体制を組織に位置づけることができ、社会福祉学の発展に寄与する。	
6	スーパービジョン体制のための理論	視点・理論・知識・方法・スキル	スーパービジョン体制における理論を理解する	スーパービジョン体制における理論を活用し、戦略を立て、効果的な介入ができる。	
7	スーパービジョン体制の様式・形態・課題	170 スーパービジョン体制の形態、スーパービジョン体制におけるツール	スーパービジョン体制においてテーマとなる内容、形態、ツールについて理解する。	スーパービジョン体制における実施の形態に適合させて、スーパーバイザーの言動の違いを使い分けられるようになる。	スーパービジョンの演習。 グループごとに取り組む形態を選択し、内容を検討の上、発表する。発表から感じたことをグループで共有する。
8	組織におけるスーパービジョン体制の意義	170 スーパービジョン体制の意義・果たす責任、スーパーバイザーの12の職務	スーパービジョン体制の意義・果たす責任、組織におけるスーパービジョン体制のスーパーバイザーの12の職務について理解する。	スーパービジョン体制の意義・果たす責任について理解し、組織におけるスーパービジョン体制のスーパーバイザーの12の職務を果たすことができる。	

9	スーパービジョンの計画作り	160	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョン体制の形態・目標・機能の決定 ・契約 ・ツールの理解と活用 	スーパービジョン体制の計画作りについて理解する。	スーパービジョン体制における知識・技術・価値の一定基準のコンピテンスに基づくスーパービジョン実践について習得し、倫理的配慮に留意し、計画を立て実行することができる。	事前課題をグループ内に配布する。課題は提出者氏名を記入し、グループワーク終了後に返却する。 SVチェックリスト、FKグリッド、FKスーパービジョン・アセスメントシート、課題取り組みの過程、スーパービジョン記録票、個人スーパービジョン計画・記録表を講師の指示に従い配布する。
10	評価尺度(事後)作成	15	スーパーバイザーの果たすべき責任	スーパーバイザーの果たすべき責任	事後確認として、倫理基準の4領域におけるスーパーバイザーの果たすべき責任の優先度をチェックする。	スーパーバイザーの果たすべき責任について、研修受講後の意識の変化を明確にする
11	事後課題	120	倫理的配慮について記載のうえ、スーパービジョンモデル計画を立案			・事後課題として、倫理的配慮について記載のうえ、スーパービジョンモデル計画を立案し提出いただく。

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 人材開発・養成講座

対象:ソーシャルワーカー現任者

目的:ソーシャルワークの専門性を踏まえた、人材育成・人材養成・人材開発の方法論を身に着けることを目的とする。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	60				指定テキストに応じた課題を設定し、事前に精読するよう案内する。
2	(1) 講義 「支援人材の養成開発体制及び養成開発論の枠組みと意義の理解」	120	・人事養成概論 ・マネジメント ・プログラミング ・スーパービジョン ・評価の実際	『介護・保険・福祉領域における支援人材の養成開発論』に基づき、人材養成のための体系・枠組み・内容・機能を明らかにし、現状の課題について理解する。	1. 支援人材の養成開発体制及び養成開発論の概念枠組みと意義の理解 2. 養成開発論の3レベルと3段階の精査 3. 養成開発論の効果的適用のための主要機能(業務マネジメント・プログラミング、スーパービジョン関係)の概要の理解	・メゾレベルにおける人材養成・開発体制の構築の為に ・ADIサイクル(同化・分化・統合)についての理解を得る ・主要3機能+評価についての理論的枠組みの提供 ・FKGの理論的枠組みが理解できるように ・指定資料あり
3	(2) 演習	180	ADIサイクルの理解、指導方法の体験、スーパービジョンの実際	「同化・分化・統合」体験をさせる時の指導の仕方を体験する。	「同化・分化・統合」体験をさせる時の指導の仕方を理解する。	・ロールプレイ方式とする。 ・きちんと役になりきれるように指導する。

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 社会福祉を学ぶ学生のための医療ソーシャルワーク学生講座

対象:社会福祉を学ぶ大学2年・3年・4年生、社会福祉士養成校学生、大学院生

目的: 社会福祉を学ぶ学生の「医療ソーシャルワーカーになりたい」「実際の仕事について知りたい」「病院実習を受ける前に事前学習したい」といった要望に応え、保健医療分野の社会福祉士(MSW)の正しい職業イメージを習得してもらう

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	講義「医療ソーシャルワーカーの歴史とその仕事の面白さ」	50	・人事養成概論 ・マネジメント ・プログラミング ・スーパービジョン ・評価の実際	『介護・保険・福祉領域における支援人材の養成開発論』に基づき、人材養成のための体系・枠組み・内容・機能を明らかにし、現状の課題について理解する。	1.支援人材の養成開発体制及び養成開発論の概念枠組みと意義の理解 2. 養成開発論の3レベルと3段階の精査 3. 養成開発論の効果的適用のための主要機能(業務マネジメント・プログラミング、スーパービジョン関係)の概要の理解	・メゾレベルにおける人材養成・開発体制の構築の為に ・ADIサイクル(同化・分化・統合)についての理解を得る ・主要3機能+評価についての理論的枠組みの提供
2	講義「医療ソーシャルワーカーの業務」	90	ADIサイクルの理解、指導方法の体験、スーパービジョンの実際	・MSWは「医療ソーシャルワーカー倫理綱領」「医療ソーシャルワーカー業務指針」に則って実践することを理解する ・保健医療分野の変化を含めた社会全体の動きを俯瞰しながら実践することを目指す ・共に働く多くの専門職を理解し、保健・医療・福祉におけるMSWの役割を自覚する ・マイクロ・メゾ・マクロレベルの実践をイメージできる	「同化・分化・統合」体験をさせる時の指導の仕方を理解する。	・ロールプレイ方式とする。 ・きちんと役になりきれるように指導する。
3	講義「必要な医学知識「地域医療とターミナルケア」	90			・倫理綱領・業務指針の内容を確認し、それに則ったソーシャルワーク実践をイメージできる ・社会や保健医療分野の変化を広い視野で捉え、クライアントとその環境との交互作用に注目できる ・他専門職を理解する努力をし、協働する意味やMSWの役割について理解を深める ・個別支援における実践は、組織・地域・社会での実践に繋がり、また循環することを理解	・倫理綱領や業務指針の内容を紹介し参照する ・支援対象などは所属機関により異なるが、ソーシャルワーク実践を支える価値・倫理は同じであることを伝える ・MSWの仕事の魅力と共に、倫理的ジレンマなど葛藤にも言及する
4	演習 グループディスカッション	60		・他の受講生と交流する ・参加への動機を確認する ・参加のモチベーションを高める	・自己紹介 ・参加動機 ・話題例) 実習体験 本カリキュラムについて 1日目の講義の感想	・ファシリテーターを各グループに1名配置する ・発表はしないので進行役などはグループに任せ ・発言しない学生がいないよう配慮する
5	講義「他職種とのチーム医療」	90		・倫理綱領や業務指針に示される、他職種との連携・協働の重要性を理解する ・所属機関内だけではなく、機関外との連携を知る ・フォーマル・インフォーマルな社会資源における連携を知る	・倫理綱領・業務指針・社会福祉士法に則った連携・協働をイメージできる ・所属機関内・外との連携について、取り組み内容を理解する ・他職種や機関ではフォーマルに加えインフォーマルな連携も知る ・支援対象者の利益を重視にした支援を心がけ、どのような連携・協働で達成できるかを考える	・倫理綱領・業務指針・社会福祉士法(連携規定)の内容を紹介し参照する ・連携をイメージしやすいような手法を導入し、工夫する 例)写真・DVDで連携の場面を見る、エコマップの活用、事例を使った連携の理解など

6	講義「社会保障とソーシャルワーク」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領や業務指針を基盤とした支援であることを理解する ・十分な説明・同意・同意を得られない場合、を意識した支援が重要であることが分かる ・生活をイメージした社会保障制度の適切な活用が重要であるという視点を持てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度について、大学などで学んだ内容を深める ・どのように支援することで、クライアントが社会保障制を適切に活用できるのかを知る ・保健医療機関でMSWが行う社会保障制度の活用支援をイメージできる ・活用の決定者はクライアントであり、説明責任・同意の有無は重要であることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度を事務的に伝えるのではないことを学生が学べるような内容にする ・ロールプレイなどでは、協力員に依頼して内容や意図の周知を図る ・社会保障制度の最新の情報を確認の上、資料を作成する
7	演習 グループ②	120	<ul style="list-style-type: none"> ・「SWIになるために」というテーマをもとに語り合い、MSWIについて理解を深める ・ディスカッションの内容をまとめ、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生は「司会」「書記」「補助」「発表者」の役割を担い、積極的にディスカッションに参加する ・本研修の成果や感想・就職についての考えなどを話し合う ・90分でディスカッションとまとめを終え、残りの30分でグループ発表を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ(ポートフォリオ作成)のため必要材料を準備 ・ファシリテーターはスムーズな展開をサポートする ・話題例) <p>本講座で理解できたこと 業務におけるストレス解消</p>

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 退院支援専門ソーシャルワーク研修(2日間)

対象: 経験3年以上の退院支援ソーシャルワークの実践者

目的: 急性期のみならず回復期および療養型の病院においても、医療ソーシャルワーカーの退院支援関連業務の専門性を高め、よりよい支援ができるようになることの重要性が高まっています。制度政策的に病院の機能分化が促進されることによって、当事者・家族の生活の継続性や安定性が脅かされがちになっています。本研修では、退院支援に関して、医療ソーシャルワーカーが当事者・家族に寄り添いつつ、確かなアセスメント力を身につけ、保健医療チームの中でそれらを共有すること、さらに地域資源間のネットワーキングによって、医療連携を高める力を身につけることを目的にします。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 事前課題	120		自身の退院支援における課題を認識して臨む		地域の実情や、地域課題、退院支援における実践課題に準じたソーシャルワークの課題を設定する
2 医療ソーシャルワーカーに望む退院支援(講演)	60	医療ソーシャルワーカーに望む退院支援～医師の視点から～	地域医療の担い手となっているかかりつけ医師の立場から、そのチームによる在宅医療の実際と退院時の問題について講演してもらう。それによって地域における医療の進歩の実態や可能性、支援課題を理解し、退院支援に関する医療ソーシャルワーカーへの役割期待を明確にする。	① 地域における医療の実態について理解する。 ② 地域医療における医師の視点やチームアプローチの展開状況を理解する。 ③ 退院支援における医療ソーシャルワーカーの役割期待を理解し、自分の実践に具体的に結びつけて、退院支援業務の改善に向かうことができるようになる。	講演者を地域で実際積極的に患者を受け入れている医師であって、医療ソーシャルワーカーの役割を認識している医師を吟味して選ぶこと。
3 退院支援業務の概観(講義)	60	退院支援業務の概観～その支援の焦点と課題～	退院支援業務の概観を辿ることで、学習の焦点と課題を明確にする。	① 個別支援に見える退院支援業務が、ミクロからメゾマクロに展開する組織的・地域的取り組みとして存在していることを理解する。 ② 制度のみならず、地域や組織を使って個別の支援を充実させること、また個別支援の問題意識が組織や地域への介入に向かうことの循環性を理解する。 ③ それらの循環性を引き出すための視点と技術の必要性とその内実を洞察する。	ミクロメゾマクロの展開過程を図示し、その転換点を事例によって明らかにできるように説明する。
4 連携の方法論の検討(講義)	60	連携の方法論の検討 その枠組みの提示 組織・地域アセスメント作業フォーマットへの記入	院支援における組織・地域連携に関する方法論に関する知識・技術を概観する。さらにその知識・技術の内実を、アセスメントに集約して理解する。	① 連携の類別ごとに、方法論の選択があることを理解する。 ② 各段階の連携課題の設定が、自分の業務のこととして考えられるようになる。 ③ チーム・組織・地域のアセスメントを、医学モデルではなく、強みと弱みモデル、戦略的介入対象として把握することを理解する。	組織内連携としてのチームアプローチと組織内定着、地域連携としてのネットワーキングを区別して提示し、どの部分について重点的に演習を実施するのかを明示する。
5 SWとNSの協働による退院支援(講義)	60	～看護との連携の内実と課題～	連携のレベルの中のチームアプローチについて、その実践に成功している病院の看護師(場合によってはMSWにも)から、職種間連携の成り立ちやその方法課題等を聴く。	① 看護師との関係をチームアプローチの段階として理解する。 ② 看護の視点とSWの視点の相違と役割分担と統合について、自分の実践にひきつけて理解する。	MSWとの連携や組織内定着がうまくできている退院支援看護師を選び出すこと。そのため退院支援サービス情報を常にリストアップしておくこと。

6	退院支援におけるSWアセスメントの重要性(講義)	60	アセスメントとしてのエコマップの活用 退院支援におけるSWアセスメントの重要性～アセスメントツールとしてのエコマップの活用～	退院支援を単なるステレオタイプな転院先の確保ではなく、SWの実践としてとらえるために必要なアセスメントを確認し、エコマップなどのツールを使うことで、当事者・家族とも退院支援の認識や情報を共有できるようになる。	① 退院支援に関して、確実なSWアセスメントが実施できるための枠組みが理解できる。 ② 退院支援に関して必要な情報を、エコマップ等のツールを使って収集する必要性が理解できる。	退院支援に関して、個別のユニークなアセスメントにつながるために必要な情報の種類や内容について、理解できるようにすること。
7	ワークショップ	120	1～退院支援業務における問題点の整理～	アイスブレイキングと共通認識の醸成をかねて、退院支援業務の現状把握と問題点の整理と解決への動機づけを、集団作業を通じて行う。	① 退院支援に関する問題をグループで共有し、その問題の性質や位置づけなどを視覚的に整理し、認識の共有ができるようにする。 ② 退院支援の問題を概観し、自分の抱えている問題が全体の中でどのような意味合いや位置づけとなっているのかを理解する。	KJ法による集団作業を実施するために、KJ法の説明や作業の促進のための仕掛けを考慮しておく必要がある。
8		120	2～組織および地域連携におけるアセスメント～	組織や地域における連携を検討した場合、介入のための組織・地域のアセスメントがもとなる。そのアセスメントが戦略的な介入につながるためには、その強みを生かし、弱みをカバーする介入が考えられる必要がある。組織・地域のメソレベルのアセスメントを、戦略的介入を目指すSWOT分析の手法を身につける。	① 自分の組織と地域への介入を前提にしたSWOT分析ができるようになる。 ② 組織や地域に対する戦略的介入の考え方を具体的に理解する。	SWOT分析についての説明と、システム論による戦略的介入の概念を説明し理解することが必要である。
9		120	3～事例によるアセスメント エコマップ	事例によるミクロを中心にしたアセスメントを、価値・知識・技術にもとづくものとして理解する。具体的な事例を具体的なツールを使いながら分析し、個別の退院支援を作っていく技量を身につける。	① 個別の事例のアセスメントを、エコマップ等のツールを使いながら具体的にたてることができるようになる。 ② 人と環境との関係性から「退院」を理解し、その対策が考えられるようになる。 ③ ミクロの問題意識・関心が、メゾ・マクロへ広がるためにすべきことがわかるようになる。	演習でアセスメントを行うにあたって、モデル提示や受講生の相互チェック、また受講生の代表者のアセスメント提示とそこへのスーパービジョンを行うことで、全体に正しいアセスメントを示す必要がある。
10	事後課題	120		自身の課題を振り返り、次に活かすことを目的とする	アクションプランを立案する	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワーカーによる退院支援実践の自己評価とプログラム評価(2日間)

対象:保健医療分野でソーシャルワーク実践を行っている経験3年以上の現任者

目的:自己評価とプログラム評価の2つの評価のアプローチを理解し、評価のスキルを活用できるようになること。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 事前課題			事前課題として下記を課す (1)自組織における退院支援にかかわる課題と対応について記述する。 (2)自組織を様式に基づき分析する。		
2 講義「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価とプログラム評価」	150	ソーシャルワーカーとしての実践と実践環境を振り返る	研修を受講するにあたり、各受講生の課題を認識する。	研修目標が明確になる。	
3 講義「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価とプログラム評価」 (1日目 9:00～17:00)	390	退院におけるソーシャルワーク実践を自己評価する	(1)退院における実践をプログラム理論に基づき理解する。(プロセス、アウトカム、インパクト) (2)退院における実践に関する自身の強みと課題を理解する。 (3)自己評価の意義を理解する	(1)ソーシャルワーカーによる退院における実践の構造をプログラム理論に基づき理解できた。 (2)演習として自己評価を行うことにより、退院における実践に関する自身の強みと課題が、認識できた。 (3)自己評価の意義を理解できた。	目標到達のために以下を行う。 (1)ソーシャルワーカーとしての確に退院支援に関与するための開発された指標(「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価」)に関する講義 (2)指標を用いた実践の自己評価の演習およびグループ討議 (3)自己評価の有用性に関するグループ討議
4 講義「ソーシャルワーカーによる退院における実践の自己評価とプログラム評価」 (2日目 9:00～17:30)	450	プログラム理論に基づき、実践プログラムを策定する	(1)プログラム評価の基本としてのプログラム理論を理解する。 (2)プログラム策定の原理と方法を理解する。	講義と演習を通して、プログラム評価の基本としての、プログラム理論を理解し、基本的なプログラム策定が行えるようになる。	具体的に以下のことを行う。 (1)プログラム評価の基本であるプログラム理論の講義 (2)退院にかかわる実践における課題を取り上げた演習

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークスキルアップ研修(記録～SOAPで記録を書くということ～)

対象:記録について学びたい保健医療分野のソーシャルワーカー

目的:電子カルテにSWも記録を書くことが増えた昨今、プロセス記録とプログレス記録の違いを明確にし、記録の中でも電子カルテに多いSOAP記録を基本にしたプログレス記録のあり方などを講義とワークショップ形式で学ぶことを目的にしている研修。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	プログレス記録(講演)	120	プログレス記録 SOAPで記録を書くということ	保健医療分野のソーシャルワーカーにとって必要な専門職としての記録について学ぶ 電子カルテ記録を視野に入れ、他職種と共有する記録であると同時に、リスク管理を配慮した記録の書き方についても学ぶ。	記録作成に必要な基礎事項の確認 専門職として倫理的責任・法的義務を果たす記録の作成 SOAP記録の記載方法の習得	電子カルテ記録の書き方及びアセスメントにつながる記録を意識する。 ワークショップ形式でインテーク情報を記録に書き落とす練習を実施する
2	ワークショップ	210	SOAP記録のワークショップ			

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークスキルアップ研修(アセスメント)

対象:保健医療分野のソーシャルワーカーの実務経験4年未満の現任者

目的:保健医療分野のソーシャルワークにおける一般的アセスメントについて医療ソーシャルワーカー基幹研修 I での学びを講義と演習を通してさらに深め、アセスメントの実践的力を高めることを目的とする

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	講義 「ソーシャルワークにおけるアセスメントとは」	60	・ジェネラリストアプローチ ・システム理論	・ジェネラリストソーシャルワークの中のシステム理論に基づく、アセスメント力を高める。 ・アセスメントの力を高めることによってソーシャルワークのスキルアップを図る。	・「アセスメントとは何か」を説明できる。 ・援助プロセスにおけるアセスメントの位置がわかる。 ・アセスメントとプランニング、エヴァリュエーションの違いを理解できる。	・自身の実践から事例を選択し、指定のフォーマットに記載して参加する。 ・保健医療分野のソーシャルワークアセスメントの為の16項目を活用する(渡辺律子 ヘップワース&ラーセン)
2	演習① グループワーク 事例の共有	50		・事例を準備しグループで共有する	・情報収集やニーズの特定、仮説などのアセスメントの過程を理解する。 ・情報の分析や統合、ニーズやソーシャルサポート等のアセスメントの枠組みを理解する。 ・ソーシャルワーク援助がアセスメントに基づくことをわかる。	・講義内容をもとに事前課題をグループで共有し、実感を伴い会得していくよう、参加体験型のセッションを工夫する。
3	講義「アセスメントにつながる面接」	40	・リアルニーズ ・心理社会的サポート ・聴く			・クライアントから教わる姿勢を押さえる。 ・コミュニケーションスキルを演習で学ぶことができるよう、当該演習に合う面接技法を紹介する。
4	演習②グループワーク「アセスメントにつながる面接の作戦会議」	30		・面接は意図的なコミュニケーションの方法であることを説明し、ニーズをとらえる必要性と、それを導くための聴くスキルの向上を目指す	・フェルトニーズ、ノーマティブニーズ、リアルニーズの違いを理解する。 ・聴くことの意味や、聴くためのソーシャルワーカーとしての準備(姿勢、態度)を理解する ・相手の気持ちに沿うコミュニケーションスキルを磨く必要性を理解する	
5	演習③ロールプレイアセスメントを導く面接の実際	70	・コミュニケーションスキル			・講師と受講生、また受講生同士の双方向性に留意して演習を進める。 ・演習の終わりに全体で共有する。

6	講義「アセスメントとの記述」	20		<p>・アセスメントに基づく援助計画に繋がる記述をする</p>	<p>・アセスメントとプランニング、エヴァリュエーションの違いを理解できる。 ・チェックリストではなく、分析、統合され、援助の根拠を表明できる。</p>	<p>・研修一コマ目に立ち返り、混同していないことを確認する。 ・他職種の判断とアセスメントと混同しないこと</p>
7	演習④グループワーク「アセスメントの記述」	60				
8	まとめ	30				

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークスキルアップ研修(面接:SFA)(1日研修×3回)

対象:経験3年以上の現任の保健医療分野のソーシャルワーカーがのぞましい

目的:面接技術を向上させることにより、短時間に適切なアセスメントにつながる情報収集やクライアントとの関係性の構築が可能となることが目標です。そのために新しい手法の一つとしてSFAの技術を学ぶことを目的にしている研修です。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
第1回研修					
1 SFAの質問の型を理解する	300	面接の基礎	SFAについて理解すること	SFAの前提、質問の型を現場で使ってみる(宿題)に着手できる程度に実践的なレベルで理解を得ること	MSWだけで解決できない組織的問題を背負い込まないことなど、面接の基本のさまざまな点にも随時触れる必要がある。チーム・ティーチングにより、現場で既にSFAを用いた実践を行っているMSWらと協働で教える。講義・実践例・小グループによる話し合い・全体討議及び質問の繰り返し
第2回研修					
1 一ヶ月間の試みを共有	60		互いの良い実践から学ぶ	お互いの成功体験、実践した経験から啓発され、更にSFAを用い、よりよいソーシャルワーク実践を目指す動機を高めること、理解を深めること	ファシリテーターがストレングスに着目した会話を行うことが大事(モデルとなる)
2 ストレングスへの着目	60	EARS	ストレングスに着目した会話を続ける練習をする	相手の強みに対する面接者の生き生きとした関心を持ち続けた会話ができるようになる	EARSのデモンストレーション、演習(チーム・ティーチングの現任MSWが話題提供者となり、受講生全体とロールプレイをする演習を行う)
3 P & Mアセスメントの枠組みに沿ったSFAの質問による情報収集の演習	180	対処の仕方、資源との繋がり方、パブリック・イシュー	実践理論のアセスメントの枠組みに沿った情報収集をすること、情報収集のスキルにSFAを活用すること	何の目的でSFAを活用するかを理解する、ソーシャルワーク実践理論の枠組みに焦点があった情報収集ができるようになること	チーム・ティーチングの現任MSWが事例を提供する、事例提供者がクライアント役となり、受講生全体とロールプレイをする演習を行う。必要に応じ、エコマップなどの面接のツールについても触れる。
第3回研修					
1 一ヶ月間の試みを共有	60		互いの良い実践から学ぶ	お互いの成功体験、実践した経験から啓発され、更にSFAを用い、よりよいソーシャルワーク実践を目指す動機を高めること、理解を深めること	ファシリテーターがストレングスに着目した会話を行うことが大事(モデルとなる)
2 ストレングスへの着目	60	EARS	ストレングスに着目した会話を続ける練習をする	相手の強みに対する面接者の生き生きとした関心を持ち続けた会話ができるようになる	EARSの演習(小グループ:話し手、聞き手、聞き手の補助役、観察・記録者の4~5人)

3	アセスメント・プラクティス	180	情報収集からアセスメント、そしてプランニング、プランの提示、合意(契約)まで	相談援助の一連のプロセスを身につける	実践理論の枠組みに沿った情報収集、アセスメント、プランニングが整合性を持つこと	チーム・ティーチングの現任MSWが事例を提供する、事例提供者がクライアント役となり、受講生全体とロールプレイをする演習を行う
---	---------------	-----	--	--------------------	---	--

900

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 インテグレイティブ・ショートターム・トリートメント(統合的短期型支援) 研修(2日間)

対象: 経験3年以上の現任の保健医療分野のソーシャルワーカーがのぞましい

目的: 近年の社会福祉などを取り巻く状況に対応するために、ソーシャルワーカーには短期間で効果的な援助が求められている。本研修では、ソーシャルワーク諸理論の統合的活用により、より効果・効率的支援の技法である「統合的短期型支援(ISTT)」を学ぶ。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30		自身のソーシャルワーク実践プロセスを振り返り、課題を認識する		
2	講義と演習 グループワーク「自己紹介と研修の目的確認」	20	・援助実践の専門性 ・プロセス ・「専門家」としての自己覚知	・援助実践の「専門性」の妥当化を図る。 ・ソーシャルワーク方法論に焦点を当て、「職人」から「専門家」への脱皮を図る。	・専門的知識と技術によって根拠を示し、支援の妥当性を出すことができる。 ・専門的知識の裏付けを意識して、専門職間での意見交換ができる。 ・研修の自己目標を立てる。	本研修の目的・到達目標を説明し、また研修が体験型学習であること・体験することの大切さを演習により共有し、受講生の参加意欲を高める。
3	講義と演習② グループ討議・発表 「ソーシャルワーク理論と統合的短期型支援(ISTT)」	65	・統合的短期型支援(ISTT) ・ソーシャルワークのグローバル定義 ・時代背景とソーシャルワーク理論 ・バイオ・サイコ・ソーシャルの視点	・ソーシャルワーク諸理論を理解する。 ・統合的短期型支援の概要を理解する。	・ISTTにおける「ソーシャルワークのグローバル定義」の意義を理解する。 ・演習にて、ソーシャルワーク理論・方法・スキルを確認し、理論を用いて社会環境の状況を理解する訓練を行い、ソーシャルワーク理論を身に着ける。 ・グループワークにて、理論についての振り返り、他者の考えを知り、理解を深める。	グループワークの人数は、4～6名で、受講生が対面して話し合いができるよう偶数が望ましい
4	講義と演習③ グループ討議・発表「ISTTの展開過程の概要」	60	・開始段階 ・展開段階 ・終結段階	ISTTの展開過程を理解する。	・受講生自身の面接が意識化して行われているか内省しながら、「開始・展開・終結」各々の段階で行うことを理解する。 ・グループワークにて、援助プロセスについて振り返り、他者の考えを知り、理解を深める。	
5	講義と演習④ グループワーク	15	実践編～統合的短期援助の実践に向けての理論的考察～	ソーシャルワーク理論と統合的短期型支援(ISTT)のまとめ	・「ソーシャルワーク諸理論」「統合的短期型支援の概要・展開過程」を振り返り、理解する。	
6	講義と演習⑤ 「ソーシャルワーク援助に必要なISTTの10のエッセンス①」	60	10項目の共通特性	ソーシャルワーク援助の対象者と介入を理解する。	・クライアントを仮定し、10項目の共通特性について考察し、その10項目を記憶する。 ・援助者のジレンマと原則について理解する。	クライアントにとって、生活における改善や変化(どんなに小さなものでも)が、非常に重要であることを説明する。

7	講義と演習⑥ 「理論的根拠 に基づいた援 助計画」 「事例検討」	150	・援助計画 ・理論的根拠 ・基礎的理論モ デルの概要	理論的根拠に基づいた援助計画を立てられるようになる。	・援助計画を立てるに当たり、援助目標・焦点・援助効果について精査し、援助計画を理論化できる。	
8	講義と演習⑦ これまでの振 返り	20	・ソーシャル ワーク理論 ・統合的短期型 支援	講義①～⑥、演習①～⑥までの内容への理解を深め、次の段階への足掛かりとする。	ソーシャルワーク諸理論・統合的短期型支援・援助計画作成について考察を重ね、理解を深める。	
9	講義と演習⑧ 「ソーシャル ワーク援助に 必要なISTTの 10のエッセ ンス②」	70	ISTTの主要要 素10項目	ソーシャルワーク援助とISTTの主要な特徴を理解する。	講義・演習⑥の事例を振り返りながら、ISTTの主要要素10項目について考察し、理解する。	
10	講義と演習⑨ 「事例から考 えるISTT」	80	・情報収集 ・アセスメント ・ソーシャル ワーク諸理論	統合的短期支援に基づく援助の目的と特徴を理解する。	事例を理解し、グループワークにて事例に沿った面接を行い、どのような面接が効果的であったか考察し、理解する。	
11	講義と演習⑩ 発表・まとめ・ 質疑応答	150	・ソーシャル ワーク実践 ・ISTT	ISTTを理解し、受講生各々が、ソーシャルワーク実践にてその技術を実行できる。	受講生・講師とで本研修を振り返り、ISTTの学びを深める。	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修 スーパービジョン

対象:スーパービジョンについて学びたい保健医療分野のソーシャルワーカー

目的:スーパービジョンは保健医療分野ソーシャルワーカーの訓練においては不可欠である。

スーパービジョンの原理を学習と実際の方法を学ぶことを目的にしている研修

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	スーパービジョンの基礎理論	120	・定義 ・機能 ・形態 ・レベル ・個別スーパービジョン ・グループスーパービジョン	ソーシャルワークスーパービジョンの基礎を理解し、実践現場においてスーパーバイザーとしての知識、スーパービジョンの関係、展開方法、アセスメントなどの実際を理解する	ソーシャルワーカーの実践現場における職場環境、組織や集団について学び、求められるソーシャルワーカー像について想像することができる。スーパービジョンは援助実践に極めて重要であることを理解できる。 認定社会福祉士などの社会から求められるソーシャルワーカーにスーパービジョンが位置づけられていることを理解する。 スーパービジョンの基礎的な理論(定義、機能、形態)を理解する。 バイザーのレベル(初級・中堅・上級)に対するスーパービジョンの目的を例示することができる。 個別スーパービジョンとグループスーパービジョンの違いを理解できる	参加者に応じて言葉の説明を丁寧に行う。 スーパービジョン、コンサルテーション、カンファレンス、事例検討会、他、関係領域で使用される、ティーチング、コーチング、プリセプターシップなど 職場内スーパービジョンと職場外スーパービジョンについて留意点を伝える。
2	講義と演習 支持的スーパービジョンの方法	120	・支持的スーパービジョン	基礎理論について理解し、実際に支持的スーパービジョンについて演習する	バイザーの課題を共有し、スーパービジョンの方向性を考え、具体的な質問をすることができる。	
3	講義と演習 グループスーパービジョン	90	・グループスーパービジョン	個別スーパービジョンとグループスーパービジョンの違いを講義と演習を通して学ぶ	個別スーパービジョンとの違いを理解することができる。 グループスーパービジョンにおけるスーパーバイザーの役割を理解し、具体的な演習を通して、体験する。 自身やバイザーの実践環境を想像し、適切なスーパービジョン方法を考えることができる。	参加者の振り返り、自らの学習目標がみえる、意義、概要
4	まとめ	30				

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 アディクションにおけるソーシャルワーク実践研修

対象:保健医療分野のソーシャルワーカー

目的:アディクションにおけるマイクロからマクロまでを範疇とする適切なソーシャルワーク実践力を高める。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 事前課題	30	・アルコール関連問題 ・地域 ・事例	・事例を通して医療圏における地域事情を思い描き、ソーシャルワーク実践課題に取り組む	・模擬事例を通して課題に取り組み、自分の実践を想起する	模擬事例を事前課題にとりいれる
2 講義と演習 グループワーク「アディクションの構造と実践に必要な基礎知識」	120	・アディクション ・マイクロ・メゾ・マクロ ・アルコール依存症診断ガイドライン、アルコール使用障害診断ガイドライン ・アルコール健康障害対策基本法などの法制度 ・健康障害 ・イネイフリング ・世代間連鎖 ・レジリエンス ・アル眼鏡 ・社会資源活用	・アディクション、アルコール依存症が起きる背景や関連する生活や人生への影響、発生する生きづらさを理解する。 ・事例を取り入れた事前課題の振り返りや講義を通して、アディクションの実践に必要な知識や制度などの法体系、診断ガイドラインを学ぶ。 ・事前課題を通して、アルコール関連問題に関わる自身のソーシャルワーク実践を振り返る。 ・アディクションを支援している機関(自助グループなど)を知る。	・アディクションの知識を学び、依存症者の生きづらさへの理解が深まる。 ・依存症者やその家族へ与える影響や巻き込まれる病や世代間連鎖の可能性を理解する ・アルコール関連問題と疾病との関係を理解する。 ・社会資源や法制度、自身の地域における実施計画等をソーシャルワーカーが認識する意義や関与する意義を理解する。 ・マイクロからメゾ・マクロへのソーシャルワーク支援に必要な概念やアプローチを理解する。	・地域の実情を理解しあえるよう地域別の座席やグループ演習が望ましい。
3 講義と演習 ロールプレイ「動機付け面接」	70	・コミュニケーション ・スピリチュアルペイン ・アウトリーチ	・スピリチュアルペイン 生きづらさ、乗り越えようとしてきた苦しみ、責められてきた体験がある人と理解する ・他者としての支援の在り方を意識し、信頼関係を育てる面接の基本的なスキルを身につける	・傾聴や共感などの基本的な面接のスキルに基づく、コミュニケーションの方法を理解する。 ・スピリチュアルペインを引き出し、アセスメント、動機づけを目的とした面接を理解する	シナリオを用いたロールプレイを取り入れる
4 講義「自助グループと協働する回復支援」	125	・自助グループ ・早期発見 ・早期支援 ・連携 ・回復	・支援の方法として様々な自助グループがあることを学ぶ ・回復を信じ、自助グループ等の協力を得ながら連携して支援することを学ぶ ・演習を通して、回復の動機づけを高める効果的なアプローチや支援環境を理解する。	・様々な自助グループがあることを理解し、自身の地域における連携体制の課題を見出す。	回復者(断酒会、AA、家族会など)から、病の語りを語る直接聞く機会を設定する。
5 まとめ	15	・支援環境		・アディクションにおける医療ソーシャルワーカーの果たすべき役割を理解する。	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワーカーとコミュニティ・デザイン～地域共生社会においてソーシャルワーカーが担う地域づくり

対象：実務経験3年以上の現任の保健医療分野のソーシャルワーカー

目的：医療機能強化や地域包括ケアの推進においてソーシャルワーカーは、ミクロレベルのソーシャル・ワークを根底に、メソ・マクロレベルのソーシャル・ワークの力を発揮するため、組織をアセスメントし、支援を組織化していく取り組みが求められている。地域共生社会を実現するために求められるソーシャルワーカーの役割を理解し、支援のあり方について考える。

到達目標：地域共生社会を実現するためにソーシャルワーカーに求められる役割を理解し、困難を抱えても地域のなかで暮らし続けられるため支援をおこなうことが出来る

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1 事前課題	30		自身の地域における課題を認識する		
2 講義「地域共生社会とそでのソーシャルワーカーの役割」	60	・地域共生社会	・地域包括ケアから地域共生社会に至る議論を整理しながら、院内外で期待が高まるソーシャルワーク、ソーシャルワーカーの役割を考える	・地域から求められるソーシャルワーク・ソーシャルワーカーの役割を理解する	
3 演習 グループワーク①「ストーリーで語る地域づくりの第一歩」	60	・地域課題	・具体的に気になる地域課題を取り上げ、ソーシャルワーカーにできることを演習から探る	・実際の地域課題をもとに、誰にとつての課題なのかを理解し必要な支援方法を考えることが出来る。	個々の具体的地域課題をもとに集団的討議をおこなう
4 演習 グループワーク②「実践するコミュニティ・ワーク」	60	・コミュニティ・ワーク	・地域課題を一つにしぼり、近い未来に見たい状態を具体化する	・地域における課題について考え、より良き未来を想像し支援のあり方を磨く	私達に出来る支援と地域づくりについて集団的に考える
5 演習 グループ発表・講評「実践するコミュニティ・ワーク」	20	・ソーシャルワーカーが担う地域づくり	地域共生社会を実現するための方法としてのコミュニティ・ワークを考え視点を知る	コミュニティ・ワークもとしてプロジェクト立案する視点を整理する	
6 ミニレクチャー	20	コミュニティ・ワーク	コミュニティ・ワークの意味・注意点を学ぶ	コミュニティ・ワークの意味・注意点を理解する	
7 演習 グループワーク③「支援を組織化する」	85	コミュニティ・デザイン	グループワーク①②より、支援を組織化していく取り組みについて考える	支援を組織化していく取り組みについて理解し、コミュニティ・ワーク身につける	
8 まとめ	25	ソーシャルワーカーとコミュニティデザイン	困難を抱えても地域のなかで暮らし続けられるため、私たちにできるコミュニティ・ワークとは何かを総括する	私たちにできるコミュニティ・ワークを理解し実践に向けた取り組みを考えることが出来る	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 周産期から始まるソーシャルワーク研修

対象:周産期・小児領域で実践中および今後関わる予定のあるソーシャルワーカー

目的:周産期及びそれに続く小児ソーシャルワークは、個人及び家族にとってライフサイクル上の重要な時期の生活を支えることになり、生活者の生活課題を予測しストレスを支えるソーシャルワークの力を発揮することが求められる。急性期医療を要する時期における集中的な支援のみならず、成長発達する子どもを地域の諸機関と共にチームで支えていく視点も必要である。家族のはじまりの時期から関わり、その後も継続的に生活を支えていくソーシャルワークについて学び、実践力を養うことを目的とする。

研修全体の到達目標:

- ・周産期の女性及び家族に生ずる変化やハイリスク新生児の疾病・障害について理解する。
- ・ハイリスク新生児及びその家族の抱える心理・社会、生活上に生じる課題について理解する。
- ・周産期におけるクライアントへの介入・支援方法・展開、制度、社会資源およびサービスを理解し、実践できる。
- ・事例研究・演習を通して実践力を身に着ける。
- ・他職種と連携・協働できる。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30		所属機関における実践内容を質問紙に記載し、現状と課題を認識する		
2	講義「周産期ソーシャルワーク概論」	45	・周産期医療 ・ライフステージ ・ライフイベント	周産期ソーシャルワークを概観し、周産期特有の支援の実際を学ぶ。	周産期医療において出会うクライアント像を想像できる。	
3	講義「実践力・実践モデル概論」	225	・実践力 ・実践理論 ・実践モデル適用の実際	ソーシャルワーカーとしての実践力向上を目指して、支援の根拠となる理論・実践モデルを学ぶ。	・ソーシャルワーク実践に必要な実践力・実践理論を理解する。 ・実践モデルを活用した援助手続きの枠組みを知る。	
4	講義「クライアント理解」	45	・心理社会的状況と生活課題 ・社会資源	周産期における今日的課題と、家族の心理状態を理解し、ソーシャルワーク支援の必要性を学ぶ。	クライアントに関して理解する。 ・時間軸による家族の心理的状況について、理解を深める。 ・外国人や障害のある場合など支援の必要性の高い家族への支援の実際を知る。	
5	(4) 講義「ミクロからメゾ実践の理解」	45	・周産期母子医療センター ・地域連携	子どもと家族を地域全体で支えるための地域ネットワークの必要性を学ぶ。	・周産期母子医療センターの役割を知る。 ・子どもと家族を取り巻く地域関係機関との有機的ネットワークの実際を理解する。	
6	講義「小児医療の理解」	90	・周産期医療 ・ライフステージ ・ライフイベント	小児医療を取り巻く社会状況や子どもや家族の成長発達の実際を学ぶ。	・小児疾患を疫学的に理解する。 ・成長に伴う変化を理解する。 ・様々な局面における意思決定の場面を知る。	

7	演習「周産期におけるソーシャルワーク介入実践状況及び課題の共有・実践モデルの理解・意識化」	180	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力 ・実践理論 ・実践モデル適用の実際 	<p>自らが実践した事例を援助の手続きの枠組みに落とし込み振り返ることを通して、周産期から始まるソーシャルワークの理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスと根拠を意識しながら自らの実践を言語化する。 ・より良い実践のための課題の意見交換や問題解決の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修事前課題として、自らの事例を実践モデルを活用して整理する ・受講生6～7名につき1名の割合で演習補助者を配置する
8	講義「児童虐待への対応」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・家族機能 ・妊娠期からの切れ目ない支援 ・虐待対応と予防的介入 	<p>医療機関における虐待対応と予防的介入の実践力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する児童虐待の社会的背景を理解する。 ・虐待が疑われる家族へのソーシャルワーク支援を考える。 ・他機関との協働について理解する。 	
9	「周産期における倫理的課題」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖医療 ・出生前診断 ・胎児診療・医療 	<p>医療の発展に伴う倫理的課題を整理し、人権を意識したソーシャルワークを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期における倫理的課題を理解する。 ・出生前診断が孕む社会的課題を理解する。 	
10	講義「小児在宅医療」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児 ・障害福祉や教育との連携 	<p>医療的ケア児を取り巻く社会的状況と、望ましい患者家族支援を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する医療的ケア児の社会的状況を理解する。 ・成長発達に応じた社会資源との連携を意識する。 	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークにおける臨床倫理

対象:実践を行っているソーシャルワーカー

目的:クライアントの自己決定を支援する重要性は論を待たない。しかし選択の局面はクライアント自身が意思表示困難な場合や選択に制限が生じる環境的变化など様々な要因が絡み合い、容易でないことは少なくない。臨床倫理的な視点でとらえ、ソーシャルワーク実践に活かすことができることを目的とする

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30		臨床現場で起こりうる倫理的なテーマを一つ取り上げ、それに対する自身の実践を振り返る		
2	講義「臨床倫理の基本」	60	・臨床倫理 ・事例検討法 4分割法、臨床倫理検討シート ・情報共有—合	・臨床倫理とは何か、その中核は、個別事例について多職種で意思決定を支援することをまなび、検討する力をつける ・意思決定のプロセスが「情報共有—合意モデル」まで、歴史的にどのように変化したか学ぶ	・自身の実践においてどのような意思決定プロセスが行われているか理解する。 ・「情報共有—合意モデル」の成り立ち、構図を説明することができる。	・事前課題で自身が実践において選択の局面を支援した事例とその考えの根拠を記載して研修に臨む。 ・事例検討法を紹介し、そのうちの臨床倫理検討シートを使った事例検討法を使うと説明
3	講義「臨床倫理検討シートによる要点の整理と考え方」	60	・臨床倫理検討シート ・事例検討	・多職種による事例検討の意義を学ぶ ・一つの方法として、臨床倫理検討シート(清水哲郎)の使い方	・臨床倫理検討シートを使った事例検討がクライアントの経過や状況を把握し、整理することに役立つと理解できる(シートの枠を説明できる)	・開催年に応じてシートバージョンを確認する。 ・臨床倫理検討法のうち、この方法を活用する利点を説明する。
4	演習「臨床倫理検討シートを用いた事例検討」	90		・実際の事例を用いて臨床倫理検討シートの活用方法を学ぶ	・臨床倫理検討シートを用いた事例検討を行うことができる。	・事例提供者による臨床倫理シートを事前に準備する。 ・事例は、研修後、回収する。 ・各グループで検討する。もしくは全体で検討するためのファシリテーターを1名以上配置する。
5	講義「最新の動向・今後の課題」	90	・最新の倫理的課題に応じたキーワード	・医療・ケアの意思決定における最新の動向、日本における今後の課題について学ぶ ・臨床倫理や意思決定支援を取り巻く、用語について整理する。	・選択を支援する臨床倫理検討の現場で用いられる用語について理解できる。	
6	まとめ	30			・自身の実践における課題を理解できる。	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 緩和ケアにおけるソーシャルワーク～いのちに向き合う～

対象:緩和ケア領域で実践中、および関心を持つソーシャルワーカー

目的:緩和ケア対象の患者と家族へのソーシャルワークは、緩和ケア病棟に限らず、がん専門相談員としての実践や緩和ケアチームへの参入など、広く求められてきている。ソーシャルワーカーとしていかに向き合い支援していくか、緩和ケアにおけるソーシャルワークについて学びその実践力を高めることを目的とする。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30		文献、又は、緩和ケアに関連する事例を取り上げて、自身の実践を省察する		事前に『死生学とQOL』藤井美和 著 関西学院大学出版会2015を読まれることを推奨。
2	講義「いのちに向き合う—緩和ケアの原点	120	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」に向き合う＝「いのちの在り方」に向き合う ・死生学 ・価値観 ・人間理解 ・スピリチュアリティ ・スピリチュアルペイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように「いのち」を見ているか、人の苦しみ(喜び)をどのように理解するかについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・死生学、価値観、人間理解から「いのちの在り方」について考察し、また、スピリチュアリティやスピリチュアルペインへの理解を深める。 	
3	講義「ソーシャルワークその支援の本質」	30	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」に向き合う—感情に向き合う ・緩和ケアにおけるソーシャルワーク ・死にゆくいのちを支える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーは「人生」＝「物語られるいのち」の語りの聴き手として、死にゆくいのちを支える役割であることを理解する。 ・ソーシャルワーク支援の本質は「患者・家族・遺族」と「人」として出会い、いのちに向き合うことであると、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアにおけるソーシャルワークは、患者・家族・遺族への心理社会的サポートであることを、緩和ケアの視座から考察する。 ・「死」に対して、患者と援助者それぞれの立場から向き合い、「物語られるいのち」に思いを寄せる。 	
4	講義「怒りをどのように理解し向き合い支援するか」	45	<ul style="list-style-type: none"> ・怒り ・防衛機制 ・怒りを抱えたクライアントに寄り添う ・自己覚知の重要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・怒りを抱えるクライアントに向き合う・寄り添うことを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・怒りについて知る。 ・怒りを抱えるクライアントに向き合う困難さを知る。 ・怒りを抱えたクライアントに向き合うために自身に必要なことを理解する。 ・防衛機制について理解する。 ・悲嘆の表現の多様性を認識する。 	

5	演習: 事例をもとに	105	・「怒り」に適切に向き合うためにどんな面接技術やコミュニケーションスキルを活用するか、についてグループワークやロールプレイを通して学ぶことを目的とする。	・「怒り」に関する知識を、個別性の把握・理解に活用できる。	・受講生のグループ分けの際、人数不足のところに研修担当が参加する。 受講生に講師陣のロールプレイが見えるよう、会場内の席を設定する。 演習の様子を踏まえ、内容やタイムスケジュールを変更する。
6	分かち合い&まとめ	30	講義・演習により学び得た「緩和ケアにおけるソーシャルワーク」について、受講生・講師と共有することで理解を深める。	研修内容を振り返り、その内容を言葉で表現できる。	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 認知症高齢者へのソーシャルワーク支援研修

対象: 保健医療分野でソーシャルワーク実践を行っているソーシャルワーカー

目的: 近年、もの忘れ外来や認知症疾患医療センターなどが医療機関に設置され、保健医療分野のソーシャルワーカーが関わり、また、治療の継続や選択の局面、地域での生活支援など、専門診療科以外でも多くのソーシャルワーカーが関わっている。人権に基づく相談援助を行う専門職として、権利擁護や成年後見などの法的な枠組みを含めたソーシャルワーク支援を学ぶことを目的とする。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	認知症の基本的な知識と最新情報(認知症の方を理解するために)	120	認知症 医学知識 告知	・認知症に関する基本的な知識と最新情報について学ぶ	・認知症に関する基本的な医学知識を得る。	医師を講師として行う。
2	認知症高齢者へのソーシャルワーク支援(事例を通して学ぶ退院援助と院外連携)	140	退院支援 連携 地域課題	・退院支援だけではなくアウトリーチによる地域課題の抽出や様々な意思決定支援の実践について事例を交えながら講義を行う。	・退院支援だけでない実践の必要性を理解する。	・ソーシャルワーク支援については、認知症高齢者を中心とした実践を行っているソーシャルワーカーを講師とする。
3	ソーシャルワークと権利擁護(成年後見と意思決定支援)	70	人権 成年後見 権利擁護	・人権に基づく相談援助を行う専門職として、権利擁護や成年後見などの法的な枠組みを学ぶ。 ・認知症高齢者へのソーシャルワーク支援を学ぶことを目的とする。	・権利擁護に関する法的枠組みを理解する。 ・それらを踏まえながら自身の認知症高齢者に対するソーシャルワーク実践を振り返り、今後の実践の根拠として説明できるようになる。 ・認知症高齢者の意思決定を保健医療分野における人権擁護の専門職として支援できるようになる	・権利擁護については、弁護士等を講師として行う。
4	まとめ	30				

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 家族療法から学ぶアセスメント

対象：保健医療分野における現任のソーシャルワーク実践者

目的：日々の業務に密接に関わる当事者と家族に対する理解をより深め、臨床に活かすことを目的に、家族療法の理論と実際について学ぶ。家族面接、ジェノグラムを用いたアセスメント、アプローチの実際、基本的な考え方の応用を目指す。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	講義「家族療法の基本的な概念と適応」	60	・家族とは ・家族療法とは ・システムとしての家族	・家族療法の歴史的な変遷を学ぶ ・家族療法が適応とする主な疾患、	・家族療法に関する基本的な知識、用語を理解する。	システム論を中心に学ぶ
2	講義「家族システムとコミュニケーションモデル」	90	・システム論 ・コミュニケーションモデル	・相談援助における家族支援の基本的な考え方を理解する	家族システム論をもとに、家族に起きているコミュニケーションパターンを理解する 相互影響的な家族関係をシステムで理解する	相互に影響しあうシステムと理解し、スケープゴード仮説による解決を求めるものではない
3	講義と演習「家族アセスメント」	90	・家族アセスメント ・ジェノグラム ・羅生門効果 (人は自分に都合の良い語りをする現象)	患者を取り巻く人的環境として家族の重要性を理解する。 家族員個人の特性ではなく、家族員間の関係性に注目する 家族関係の変化を見立てる 羅生門効果に注意し、家族員それぞれの語りから仮説的に家族関係を構成する	家族関係をパワー、ヒエラルキー、距離、関係を図でアセスメントすることができる 3世代までアセスメントする必要性を理解できる。	DVDやロールプレイを活用して、家族関係を図示する 自身の実践に引き寄せ獲得できるような演習教材(事例)を準備する。
4	講義と演習 まとめ「ジェノグラムを活用した面接」	120	・ジェノグラム	ジェノグラムの基本的な書き方を学ぶ ジェノグラムを活用した質問方法を学ぶ	ジェノグラムの書き方を理解し、面接によってアセスメントすることができる。 ジェノグラムを用いた質問のポイント(家族の対応・ストレスや葛藤・パターンの存在・役割と機能)を理解する	ジェノグラムの基本的な書き方は配布資料を用意する

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 在宅医療ソーシャルワーク研修

対象:在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅医療介護連携支援センターに勤務している(又は予定の)ソーシャルワーカー

目的:在宅医療現場におけるソーシャルワーク業務の標準化と、患者家族・地域社会に貢献できるような実践力向上を目的としています。
 ソーシャルワークの専門性を発揮した実践を学び合い、地域を超えたネットワークづくりを行います。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
事前課題	30				
講義「在宅医療の実際－医師の立場から－」	90	多職種のチームで連携する在宅医療～「自分らしく生きる」を支える～	在宅医の立場から、在宅医療の実践や可能性、支援課題を理解し、ソーシャルワーカーへの役割期待を明確にする。	在宅医療の実態と課題、在宅医の視点を理解し、ソーシャルワーカーとしての業務改善に役立てることができる。	講師は積極的に現場で実践し、ソーシャルワーカーの役割を認識している医師を吟味して選ぶこと。(後援団体にも配慮する)
講義「診療報酬改定に関する当協会の取り組み」	30	・診療報酬改定 ・専門職団体の取り組み	在宅医療現場におけるソーシャルワークの発展に向けた活動を紹介し、協会の方針を明確にする	専門職団体の活動を把握し、一ソーシャルワーカーとして、声を上げることの意味を理解できる。	会員のバックアップやソーシャルアクションの視点で、関連事業について伝える。
講義と演習「在宅医療で出会う倫理的課題」	90	在宅医療で出会う倫理的課題～ソーシャルワーカーとして一緒に悩もう	実践の中で倫理的課題に気づき、根拠をもって判断、行動することの重要性を理解する。	価値観の多様性と葛藤が起きている構造、そこにソーシャルワーカーが介入する意義を方法論とともに理解できる。	診療所では一人職場が多いため、抱え込まずに他機関のソーシャルワーカーなどに相談できる環境をつくることの大切さを伝える。
演習 グループワーク	100	在宅医療ソーシャルワーカーの業務とは	日常業務やソーシャルワーカーの強みなどをディスカッションすることで、よい実践を学び合う。	①業務や実践を言語化し、他者と共有できる。②新たなつながりを創ることができる。	所属機関の地域や機能ごとにグループ分けをしたほうが、ディスカッションの内容が深まる。

340

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 人生の最終段階における意思決定支援研修(2日間)

対象:保健医療分野でソーシャルワーク実践を行っている医療ソーシャルワーカー

目的:現場の医療ソーシャルワーカーが行っている「人生の最終段階における意思決定支援」について理解を深めることを目的とします。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
事前課題	30				
講義 ミニレクチャー「研修の意義とアイスブレイク」	30	・ACP ・臨床現場と地域 ・取り組みと課題	ACPに関する臨床現場・地域での取り組みや課題を共有し、受講のモチベーションを高める。	自身の臨床現場・地域での課題と受講動機を言語化できる。	国の事業に対する専門職団体の関わりについても説明する。
講義「アドバンス・ケア・プランニングの地域への展開について」	90	・医療体制整備事業 ・E-FIELD ・臨床倫理支援チーム・委員会	わが国や諸外国の制度背景を概観し、E-FIELDプログラムや臨床倫理支援チームとして行う意思決定支援の重要性を理解する。	国の事業への関心を高め、日頃実践している意思決定支援であるということを確認できる。	一支援者が抱えることなく、組織単位で対応する仕組みづくりや教育プログラムについて理解する。
講義「人生の最終段階における臨床倫理と相談のあり方」	90	・同一異の倫理 ・倫理的姿勢と状況把握 ・物語られるいのち	人間関係における倫理の基本的構造と起源、臨床現場でのジレンマと対応について理解する。	臨床場面で起きるジレンマを否定的に捉えることなく、人間関係の倫理の基本的構造に由来し、起こり得るものであると理解できる。	倫理の基本的構造を、自身の臨床場面に引き寄せて考えられるよう伝える。
講義「人生の最終段階における「つなぐ」連携」	90	・本質的な希望 ・連携 ・職能を高める・広げる	「命をのばす」から「希望をかなえる」医療・介護のあり方の変化と、本質的な希望について理解する。	院内外連携において、ソーシャルワーカーが果たすべき役割を再考することができる。	職能を高めることが必要とされ、希望をつなぐための技術を発揮すべきことを説明する。
講義「チーム医療におけるソーシャルワーカーの役割」	90	・対象者理解 ・チーム医療 ・アドボカシー ・ネットワーキング	人生最終段階における意思決定を医療チームで支援するにあたり、一員であるソーシャルワーカーの役割を理解する。	ソーシャルワーカーが人生の最終段階における意思決定にかかわる意義を理解し説明できる。	患者の本当の思いにたどり着くための面接・コミュニケーションの重要性を再認識できるよう強調する。
講義「意思決定に関する法的知識」	90	・意思表示・意思能力 ・ガイドライン ・安楽死・尊厳死 ・医療事故調査制度	「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」の策定の背景と概要、意思にかかわる法的根拠について学ぶ。	ガイドラインの趣旨や意思決定支援に関連した法律上の論点を理解できる。	法律が規範の全てではないが、個別・多様な問題に対応する上で、最小限のルール化を学ぶ必要があることを踏まえる。

講義と演習「アドバンス・ケア・プランニング～意思決定の支援」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォームド・コンセント ・事前指示 ・POLST ・ACP ・narrative 	米国の自己決定の概念をもとに、事前指示・POLSTとACPの違い、evidence-based narrativeへの転換の重要性について学ぶ。	患者家族の想いや人生、どのように生きていきたいかを尊重し、語りを傾聴する意味について理解できる。	インフォームド・コンセントやACPの考え方について正確に理解できるよう説明する。
講義と演習「人生の最終段階におけるソーシャルワーク支援：意思決定支援の実際①」	90	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成 ・アドボカシー ・ネットワーク ・連携 ・ソーシャルキャピタル 	人生最終段階の患者とその家族の意思決定を、ソーシャルワーカーとしてどう支援するのかを理解し、その実践力を向上させる。	患者の本当の思いにたどり着くために必要なソーシャルワーカーとしての姿勢や知識・技術について具体的に理解できる。	参加者それぞれの意思決定支援のかかわりを踏まえて、ワークの場面設定を調整する。
講義と演習「人生の最終段階におけるソーシャルワーク支援：意思決定支援の実際②」	90				

780

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 老健ソーシャルワーク研修

対象: 老人保健施設(老健)に勤務するソーシャルワーカー(支援相談員)

目的: 老健に勤務するソーシャルワーカーの資質向上を図るとともに、組織、地域内における老健ソーシャルワーカーの役割について演習などを通して話し合い、組織・地域貢献を考えます。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30				
2	講義「老健の役割、組織理解」	60	在宅ケアの拠点として介護老人保健施設の支援相談員に求めること	老健施設長(医師)よりこれからの老健の役割、組織について講義をしていただき、支援相談員としての役割を考える。	介護報酬や地域、組織の現状を照らし合わせ、これからの老健の役割、組織理解ができる。	・全国老人保健施設協会からの講師派遣 ・介護報酬改定の要点について理解する。
3	講義「老健の支援相談員の求められる役割の理解」	60	組織の中で介護老人保健施設の支援相談員に求めること	老健支援相談員管理職よりこれからの支援相談員に求められる役割について実践を用いて講義をしていただき、支援相談員としての役割を考える。	組織、地域から求められる老健支援相談員の役割やこれからの活動について、考えることができる。	
4	講義「実践報告」	30	実践報告	事前課題にそくした実践報告をしていただき、今後の老健支援相談員の取り組みについて考える。	実践報告内容を自施設、自地域と照らし合わせ理解することができる。	・事前課題 1. 同時改定の影響と対応 2. 空床情報の課題と対応 3. 具体的な地域連携活動
5	演習 ワールドカフェ人	90	ワールドカフェ	事前課題を用いて、受講者同士が話し合うことで、具体的な自組織、自地域の課題の解決策について考える。	事前課題を用いて、受講者同士が話し合うことで、受講後の組織、地域内での実践に活かすことができる。	

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 2018年度人権擁護とソーシャルワーク研修(広島会場)
 「社会で自分らしく働くために～HIV陽性者の就労支援から学ぶ～」
 厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」
 中国四国ブロック拠点病院広島大学病院 共催 とする

対象: ソーシャルワーカー、看護師等医療福祉介護従事者、就労支援関係者。

目的: 医療ソーシャルワーカーやその他の専門職が「人権擁護」の視点から対象者を取り巻く社会現象を理解し、支援を考える。
 HIV 陽性者を取り上げ、実践において日頃抱いている課題を共有し、実践力を高める。

科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
講義と演習 「HIVの基礎知識」	80	・HIVの基礎知識 ・拠点病院	・HIVの基礎知識を得て、HIV陽性者を取り巻く現状を理解する。 ・地域の実情を理解する視点を持つ。	HIVの基礎知識を得る。 HIV陽性者を取り巻く社会と地域の現状を共有することができる。	拠点病院(2018年度は中国四国ブロック)医師より講義し、グループワークを行うことで、地域の実情についても共有する。
講義と演習 「HIV陽性者の就労支援」	75	・HIV陽性者 ・就労支援 ・人権擁護	・人権擁護の視点から、HIV陽性者の就労支援を考え、社会現象を理解する。	・人権擁護の視点から、HIV陽性者の就労支援を理解することができる。	他ブロック拠点病院のソーシャルワーカーより講義し、グループワークを行うことで、広く日本での就労支援について考える。
講義「血友病薬害被害者の歴史と就労について」	30	・血友病薬害被害 ・歴史 ・当事者	・当事者から、血友病薬害被害の歴史と就労について学ぶ。	・人権擁護の視点から、血友病薬害被害の歴史と就労について理解する。	当事者より講義し、当事者から聴くことの重要性を再認識する。
演習「当事者と就労受入れ側の体験から多職種での連携のあり方を考える」	130	・就労支援 ・多職種連携 ・私にできることを見つける	・HIV陽性者の就労支援について、多職種連携のあり方を考える。	・HIV陽性者の就労支援について、多職種連携のあり方を共有し、自分にできることを明確化する。 ・アクションプランを明確にする。	グループワークを通じ、アクションプランを明確にする。

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 2018年度人権擁護とソーシャルワーク研修(石川会場)

「歴史を踏まえソーシャルワークを語ろう」

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」

北陸ブロック拠点病院石川県立中央病院 共催 共催 とする

対象:ソーシャルワーカー、看護師等医療福祉介護従事者、就労支援関係者。

目的:医療ソーシャルワーカーやその他の専門職が「人権擁護」の視点から対象者を取り巻く社会現象を理解し、支援を考える。

HIV 陽性者を取り上げ、実践において日頃抱いている課題を共有し、実践力を高める。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	講義「HIVとソーシャルワークにおける今日的課題」	60	・HIVとソーシャルワーク ・歴史	HIVとソーシャルワークの今日的課題から、「人権擁護」の視点を学ぶ。	HIVとソーシャルワークの今日的課題と「人権擁護」の視点を理解する。	ソーシャルワーカー・研究者としてHIV陽性者支援にかかわり続けている講師より、ソーシャルワーク実践のあり方を学ぶ。
2	講義「HIV/AIDS医療の最新情報」	30	・HIV/AIDSの最新医療 ・拠点病院	HIV/AIDSの最新情報を得て、HIV陽性者を取り巻く医療の現状を理解する。	HIV/AIDSの医療の最新情報を身につける。	北陸ブロック拠点病院の医師より講義し、医療の現状について共有する。
3	講義「薬害エイズを語る」	50	・薬害エイズ ・当事者	当事者から、薬害エイズについて学ぶ。	人権擁護の視点から、薬害エイズについて理解する。	当事者より講義し、当事者から聴くことの重要性を再認識する。 「ネットワーク医療と人権」の当事者より講義する。
4	講義と演習 パネルディスカッション「HIVとソーシャルワークを語る」	90	HIVとソーシャルワーク実践	「人権擁護」の視点から、HIV支援の課題を明らかにし、ソーシャルワーカーとして支援を考える。	HIVとソーシャルワークを語ることから、実践において日頃抱いている課題を共有し、実践力を高めることができる。	
5	演習 グループディスカッション「HIVとソーシャルワークを語る」	85				講師や拠点病院のソーシャルワーカーらでパネルディスカッションを行い、その後グループディスカッションを行う。 参加者自らの実践課題を明確にする。

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワーク研究発表セミナー(2日間)

対象:保健医療分野におけるソーシャルワーカー実践者

目的:医療ソーシャルワーカーの研究力の習得・向上を目的に、量的研究・質的研究の基本的構造や手法を学ぶ。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	事前課題	30		自身を持つ研究の種について研究動機をまとめる		
2	ソーシャルワークにおける質的研究の実際	180	質的研究	質的研究方法の特徴や研究課題の定め方、データ収集の手法と分析方法、結果の示し方について理解する。	1. 質的研究方法の概要を理解する 2. 質的データのとり方を理解する 3. 質的データの分析方法を理解する	
3	ソーシャルワークにおける量的研究の実際	180	量的研究	先行研究の検索、調査デザインや調査票の作成方法、調査対象者の同定や同意取得、調査の実施とデータ分析方法といった、量的研究方法の具体的手法について理解する	1. 量的研究方法の概要を理解する 2. 量的データのとり方を理解する 3. 量的データの分析方法を理解する	
4	演習	240	私の実践と問題意識・研究計画の共有	講義とグループによる演習を通して、ソーシャルワーク実践からの問題意識を焦点化しつつ、研究の目的を立案する。	以下の調査研究のプロセスを理解する 1. 研究準備:先行研究の検索・研究によって得られる利益と不利益のバランスについて検討する 2. 研究計画書作成 3. 研究実施:研究の同意取得・データ収集 4. データ収集後の分析 5. 研究発表:倫理的配慮を遵守した論文作成、学会発表	・演習1:私の実践と問題意識／研究計画との統合 ・演習2:研究テーマの展開・方法 ・演習3:各グループの質的研究、量的研究プロジェクト
5	事後課題	45		研究計画書を作成する		

日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークにおける就労支援(1日間)

対象:保健医療分野におけるソーシャルワーカー実践者

目的:日本の就労に関する現状・問題・課題を軸に、政策的動向・対象患者を疾患・障害・環境などから理解する。
患者が病気や障害を抱えながらも、職業生活と治療を両立させることができるよう、支援することを目的とする。

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	日本における就労の現状と就労支援の意義	60		<ul style="list-style-type: none"> ・就労の意味、就労支援の意義、キャリア発達など、就労を支える理論などを理解する。 ・日本における就労の現状・問題を整理する(高齢者・障害者・低所得者などを取り上げる) ・その理解の上に病者への就労支援が開始された意味を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労の意味や就労支援の基盤である理論・考え方を学ぶ ・日本における就労について、高齢者・障害者・低所得者などへの就労施策の概要を知る ・病気の治療と職業生活を両立させるための支援(両立支援)について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意味、支援の意義、支援を支える理論を学ぶ ・保健医療機関では、疾病や障害を持ったクライアントへの就労支援が多い。しかし、日本の人口動態、高齢者・障害者・低所得者への支援にも注目し、就労支援を理解する
2	両立支援の政策的動向(がん・脳卒中・難病・肝炎など)	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がん・脳卒中・難病・肝炎などを取り上げ、両立支援の現状を政策動向から理解する ・厚生労働省3局(健康局・職業安定局・労働局)の動きを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な疾病において、両立支援が政策的に進められていることを知る ・両立支援ガイドライン・両立支援コーディネーターを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSWとして行う就労支援と併せ、国の進める両立支援について、整理・理解する ・資料としてガイドラインを用意する
3	産業医の役割と就労への配慮・支援	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がん・脳卒中などについての医学的知識を深める ・産業医の役割を理解する ・就労に関する配慮について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在理解している医学知識を確認し、深める ・産業医の役割を知る ・どのような配慮・支援が、労働者(患者)や雇用側に対して必要かを知る 	
4	がんの就労支援の実際と社会資源	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がんの例から、具体的な就労支援について学ぶ ・この就労支援例において、活用した社会資源などを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例から、就労支援をイメージし、実践に繋がられる ・フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用に繋がられる 	
5	脳卒中の就労支援の実際と社会資源	60		<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中の例から、具体的な就労支援について学ぶ ・この就労支援例において、活用した社会資源などを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例から、就労支援をイメージし、実践に繋がられる ・フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用に繋がられる 	
6	所属機関における就労支援	40		<ul style="list-style-type: none"> ・所属機関でどのように就労支援を行うか、或いは行えない理由は何かをMSW個人とグループで深め、まとめて発表する ・具体的な就労支援事例において困っていることなどをまとめ、グループで検討し、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修で学んだことの集大成として、位置づける ・保健医療機関・労働者(患者)・雇用者の3者と、それを取り巻く様々な人・機関・資源などを考慮に入れた支援を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能なら、受講前にどのような立場で就労支援を行っているか、就労支援で困っている点は何か、どの疾患が多いかなどを受講動機で出せるとよい(内容については検討要)

2 ポイント基準項目 1)日本医療ソーシャルワーカー協会主催研修会 ソーシャルワークにおける就労支援 (2日間)

対象:保健医療分野におけるソーシャルワーカー実践者

目的:患者が病気や障害を抱えながらも、職業生活と治療を両立させることができるよう、支援することを目的とする。

病院・労働者(患者)・雇用者(職場)のトライアングル支援と、それを取り巻く社会資源や多職種協働を知る。

労働者・雇用者(産業医・産業保健師・経営者などを含む)など、当事者や立場の異なる支援者から見た就労支援を理解する

	科目名	単位数 (時間数)	テーマ・サブタイトル(キーワード)	目的	到達目標	留意点
1	日本における就労の現状と就労支援の意義	70		<ul style="list-style-type: none"> ・就労の意味、就労支援の意義、キャリア発達など、就労を支える理論などを理解する。 ・日本における就労の現状・問題を整理する(高齢者・障害者・低所得者などを取り上げる) ・その理解の上に病者への就労支援が開始された意味を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労の意味や就労支援の基盤である理論・考え方を学ぶ ・日本における就労について、高齢者・障害者・低所得者などへの就労施策の概要を知る ・病気の治療と職業生活を両立させるための支援(両立支援)について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意味、支援の意義、支援を支える理論を学ぶ ・保健医療機関では、疾病や障害を持ったクライアントへの就労支援が多い。しかし、日本の人口動態、高齢者・障害者・低所得者への支援にも注目し、就労支援を理解する
2	両立支援の政策的動向(がん・脳卒中・難病・肝炎など)	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がん・脳卒中・難病・肝炎などを取り上げ、両立支援の現状を政策動向から理解する ・厚生労働省3局(健康局・職業安定局・労働局)の動きを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な疾病において、両立支援が政策的に進められていることを知る ・両立支援ガイドライン・両立支援コーディネーターを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSWとして行う就労支援と併せ、国の進める両立支援について、整理・理解する ・資料としてガイドラインを用意する
3	産業医の役割と就労への配慮・支援	70		<ul style="list-style-type: none"> ・がん・脳卒中などについての医学的知識を深める ・産業医の役割を理解する ・就労に関する配慮について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在理解している医学知識を確認し、深める ・産業医の役割を知る ・どのような配慮・支援が、労働者(患者)や雇用側に対して必要かを知る 	
4	がんの就労支援の実際と社会資源	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がんの例から、具体的な就労支援について学ぶ ・この就労支援例において、活用した社会資源などを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例から、就労支援をイメージし、実践に繋がられる ・フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用に繋がられる 	
5	脳卒中の就労支援の実際と社会資源	60		<ul style="list-style-type: none"> ・がんの例から、具体的な就労支援について学ぶ ・この就労支援例において、活用した社会資源などを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例から、就労支援をイメージし、実践に繋がられる ・フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用に繋がられる 	
6	労働者の立場から就労支援を考える	60		<ul style="list-style-type: none"> ・患者の具体的な闘病・生活・就労・社会参加等を知る ・またMSWに対し、どのような支援を望むのかを学ぶ ・就労支援のゴールが就労ではない場合もあることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者が語る具体的な闘病・生活・就労・自己実現などから、MSWの支援をイメージする ・保健医療機関とMSWに求められる支援を理解する ・相談できる体制構築を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現・社会参加を考える ・患者の自己決定の大切さに気づく。一方で病状・所属機関の見解から生じる倫理的ジレンマを理解する ・支援体制を考える

7	雇用者から就労支援を考える	60	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用者が、病気や障害をもつ労働者の復職・就労・疾病管理等をどのように考えるかを知る ・保健医療機関の就労支援において、またMSWIに、どのような支援を望むのかを学ぶ ・トライアングル支援を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用者が、病気や障害を持った労働者の復職・就労・疾病管理などをどのように考えているかを知り、MSWの支援をイメージできる ・保健医療機関とMSWIに求められる支援を理解できる ・トライアングル支援の意義を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則や安全配慮義務などについて理解する ・雇用者側の努力と制約などについて理解し、トライアングル支援を理解する
8	労働者と雇用者立場を超えて語る	40	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者や雇用側の変革が両立支援には求められており、双方の協働から生まれる変化について前向きなディスカッションを行い、MSWの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療機関外の立場にある方たちの考え方を理解し、その上でMSWが支援を幅広く考えられることを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSWから質問し、生の声を聴くことのできる機会とする ・前もって質問を集めておくなどの工夫も考えておく
9	所属機関における就労支援	120	<ul style="list-style-type: none"> ・所属機関でどのように就労支援を行うか、或いは行えない理由は何かをMSW個人とグループで深め、まとめて発表する ・具体的な就労支援事例において困っていることなどをまとめ、グループで検討し、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・I・IIで学んだことの集大成として、位置づける ・保健医療機関・労働者(患者)・雇用者の3者と、それを取り巻く様々な人・機関・資源などを考慮に入れた支援について振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能なら、受講前にどのような立場で就労支援を行っているか、就労支で困っている点は何か、どの疾患が多いかなどを受講動機で出せるとよい(内容については検討要)